

夏目漱石

東洋美術図譜

東洋美術図譜

偉大なる過去を背景に持っている国民は勢いのある親分を控えた個人と同じことになにかにつけて心丈夫である。あるときはこの自覚のために驕慢きょうまんの念を起おこして、当面の務を怠ったり未来の計を忘れて、落ち付いている割に意気地いくじがなくなる恐れはあるが、成上りなりあがものの一生懸命に奮闘する時のように、あくせくとこせつく必要なく鷹揚おうよう自若と衆人環視うちの裡うちに立って世に処することのできるのはまったく祖先が骨を折っておいてくれた結果と言わなければならぬ。

余よは日本人として、神武じんむ天皇以来の日本人が、いかなる事業をわが歴史上に発展せるかの大問題を、過去に控えて生息するものである。もとより余一人の仕事は、余一人の仕事に違いないのだから、余一人の意志で成就じょうじゆもし破壊もするつもりではあるが、余の過去、——もつと大きく言えば、わが祖先が余の生れぬ前に残して行つてくれた過去が、余の仕事のいくぶんかをすでに余の生れた時に限定してしまったような心持がする。自分は自分の為することについてあくまでも責任を負う料簡りようけんではあるが、自分をしてこの責任を負わしむるものは自己以

外には遠い背景が控えているからだろうと思う。

そう考えながら、新しい目で日本の過去を振り返って見ると、少し心細いようなところがある。一国の歴史は人間の歴史で、人間の歴史はあらゆる能力の活動を含んでいるのだから政治に軍事に宗教に経済に各方面にわたって一望したらどうい^{たのも}う頼母しい回顧ができないともかぎるまいが、とくに余に密接の関係ある部門、すなわち文学だけで言う^と、ほとんど過去から得るインスピレーションの乏しきに苦しむという有様である。人は源氏物語や近松^{ちかまつ}や西鶴^{さいかく}を挙^げて吾等^{われら}の過去を飾るに足る天才の

發揮と見認めるみとかもしれないが、余にはどうていそんな
己惚うぬぼれは起せない。

余が現在の頭を支配し余が将来の仕事に影響するものは残念ながら、わが祖先のもたらした過去でなくって、かえって異人種の海の向うから持って来てくれた思想である。一日余は余の書齋すわに坐すわって、四方に並べてある書棚しよだなを見渡して、その中に詰まっている金文字の名前がことごとく西洋語であるのに気が付いて驚いたことがある。今まではこの五彩の眩まばゆいうちに身を置いて、少しは得意であつたが、気が付いてみると、これ等は皆異国

産の思想を青く綴じたり赤く綴じたりしたもののみである。単に所有という点から言えばいさゝか富という念も起るが、それは親の遺産を受け継いだ富ではなくって、他人の家へ養子に行つて、知らぬものから得た財産である。自分に利用するのは養子の権利かもしれないが、こんなもののお蔭を蒙こうむるのは一人前の男としては気が利きかなすぎると思うと、あり余る本を四方に積みながら非常に意気地のない心持がした。

東洋美術図譜は余にこういう料簡の起つた当時ほんぽうに出版されたものである。これは友人滝君が京都大学で本邦美

術史の講演を依頼された際、聴衆に説明の必要があつて、建築、彫刻、絵画の三門にわたつて、古来から保存された実物を写真にしたものであるから、一枚一枚に観てゆくと、この方面において、わが日本人がいかなる過去を吾々のために拵こしらえておいてくれたかが善よく分わかる。余のごとき財力の乏しいものには参考としてはなはだ重宝ちようほうな出版である。文学において悲観した余はこの凶譜を得たために多少心細い気分を取り直した。凶譜中にある建築彫刻絵画ともに、あるものは公平に評したら下くだらないだらうと思う。あるものは源氏物語や近松や西鶴以下か

もしれない。しかしその優れたものになると決して文学程度のものとは言えない。われ／＼日本の祖先がわれ／＼の背景として作ってくれたと言って恥ずかしくないものがだいぶある。

西洋の物数奇ものずきがしきりに日本の美術を云々うんぬんする。しかしこれは千人のうちの一で、あくまでも物数奇の説だと心得て聞かなければならない。だいたいのうえからいうと、そういう物数奇もやはり西洋のほうが日本より偉いと思っているのだらう。余も残念ながらそう考える。もし日本に文学なり美術なりができるとすればこれから

である。が、過去において日本人がすでにこれだけの仕事をしておいてくれたという自覚は、未来の発展にすくな少からぬ感化を与えるに違いない。だから余は喜んで東洋美術図譜を読者に紹介する。このうちから東洋にのみあつて、西洋の美術には見出みいだしうべからざる特長を觀得することができるならば、たといその特長が全体にわたらざる一種の風致ふうちにせよ、觀得しえただけそれだけその人の過去を偉大ならしむるわけである。したがつてその人の将来をそれだけインスパイヤーするわけである。

(明治四三・一・五)

日本文学電子図書館

東洋美術図譜

著 者 夏目漱石

制作者 宮澤一郎

底 本 「漱石全集 第 7 卷」角川書店
昭和42年 6月30日 6版発行

日本文学電子図書館